高知海軍航空隊通信所跡

ー耐弾式通信所の調査ー

現地説明会資料

通信所３内部の様子

日時：　記 者 発 表　　平成 25 年 8 月 1 日　10:00～

　　現地説明会　　平成 25 年 8 月 3 日　10:00～

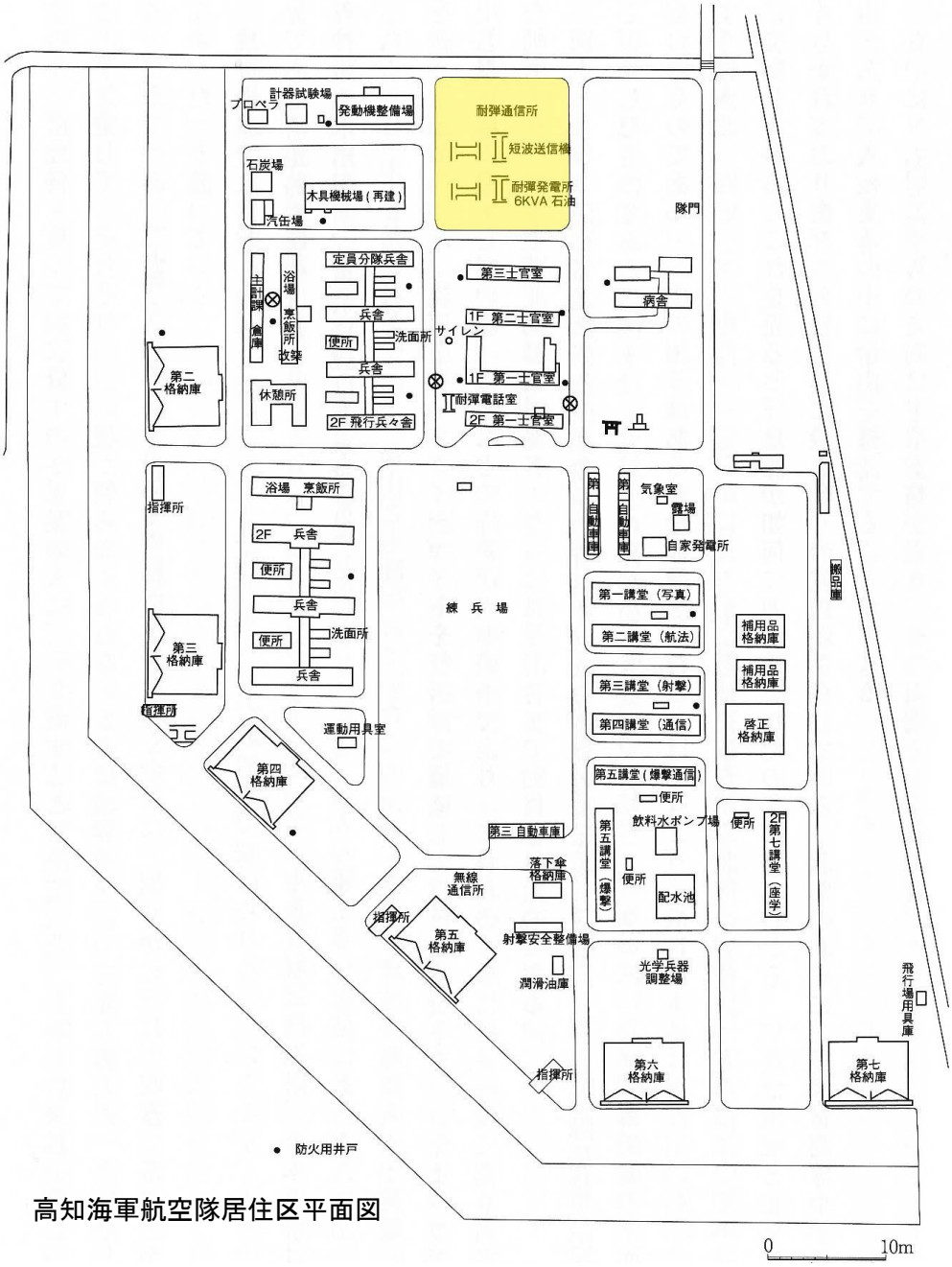
高知大学・南国市教育委員会

高知海軍航空隊とは

現在の高知空港の前身であり、戦時中の 1941 年 1 月から旧三島村の約 7 割にあたる約 220ha の面積を強制的に接収して飛行場および関連施設を建設しました。

ここでは、士官 160 名、兵員 3,660 名、機上作業練習機「白菊」55 機が配置され、飛行訓練が行われていましたが、戦争末期には神風特攻隊菊水部隊「白菊」隊が編成され、26 機出撃し、52 名が戦死しました。

戦後、滑走路部分は高知空港になりましたが、南の用地と誘導路は農民たちに戻され、田畑の復元に努めました。しかし、頑丈に造られた掩体 7 基は壊されずに残り、現在、市の史跡として平和教材に活かされています。北の兵舎等は高知大学農学部となり、現在も戦時中の遺構がいくつか残されています。その中の 1 つが耐弾通信所跡で、農学部北東隅にある広さ 4500 ㎡の高まりの地下には、4 基が非常に良好な保存状態で残されています。



高知海軍航空隊居住区平面図

周辺の戦争遺跡

指揮所壕

農学部の南西隅にカマボコ形のコンクリート建物があり、高知空港駐車場から観察できます。入口は埋まっていますが、地上と地下施設の両方が残されている貴重な例です。

物部川堤防のトーチカ

高知高専南東の物部川堤防に円柱形のコンクリート製トーチカがあります。機関銃を据え付けて、米軍機を撃墜したという話も伝わっています。

前浜掩体群

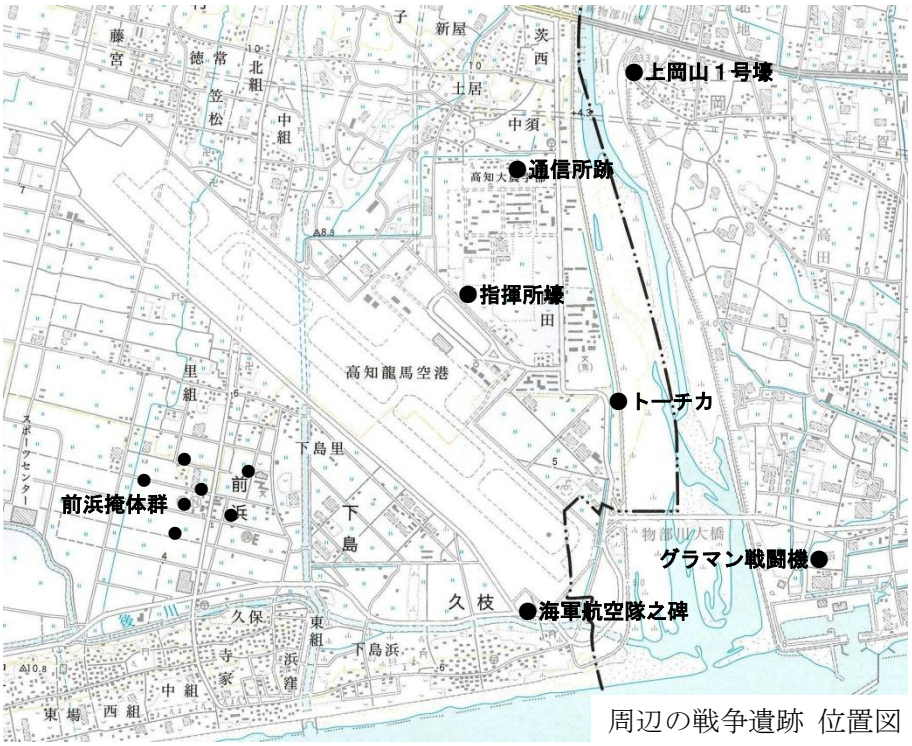
敵の攻撃から飛行機を守るための格納庫で、コンクリート製の７基が残されています。すべて南国市史跡に指定されており、そのうちの１基は公園化整備されています。

上岡山１号壕

物部川対岸の香南市上岡山に掘られた海軍の地下壕です。推定される総延長は約 120m あります。

グラマン戦闘機のプロペラとエンジン

南国市久枝の沖から引き揚げられた米軍のグラマン戦闘機のプロペラとエンジンが香南市天然色市場に保管されています。



周辺の戦争遺跡 位置図

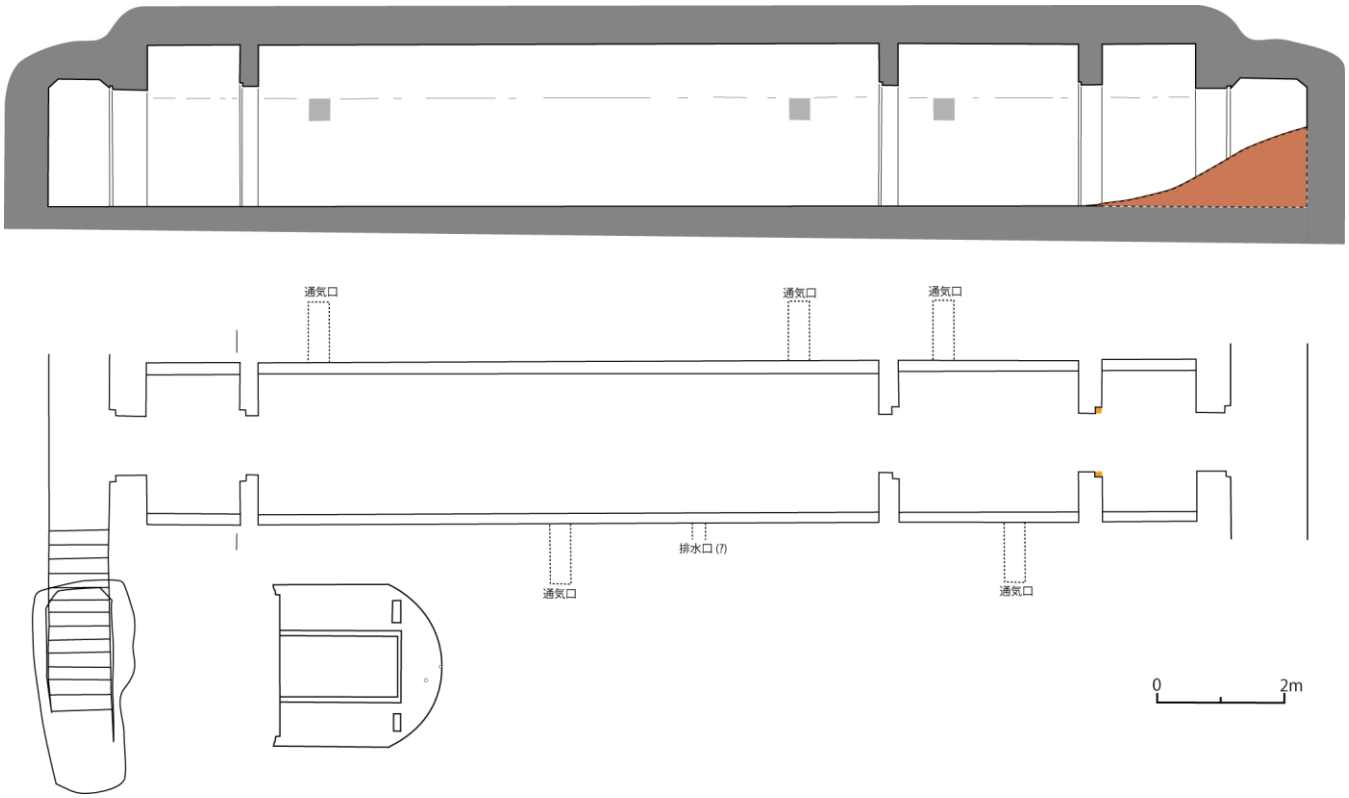
通信所跡の発掘調査

調査に至る経緯

現在の高知大学農学部の場所は戦時中、格納庫や兵の居住区として利用されており、兵舎や指揮所などの施設が建っていました。農学部北東部の地下には、海軍航空隊の中枢施設である耐弾通信所が残されており、高知大学の駐車場開発計画を受けて、周知の埋蔵文化財包蔵地にあたるため、施設の配置や残存状態等の内容確認のために南国市教育委員会が試掘確認調査を実施しました。

調査概要

所　在　地	南国市物部乙 200
調 査 目 的	開発計画との調整をはかるための試掘確認調査
対象地面積	4,500 ㎡
調 査 期 間	平成 25 年 6 月 24 日～7 月 8 日
調 査 主 体	南国市教育委員会



通信所１　平面および見通し断面図（コンクリート厚は推定）

通信所の概要

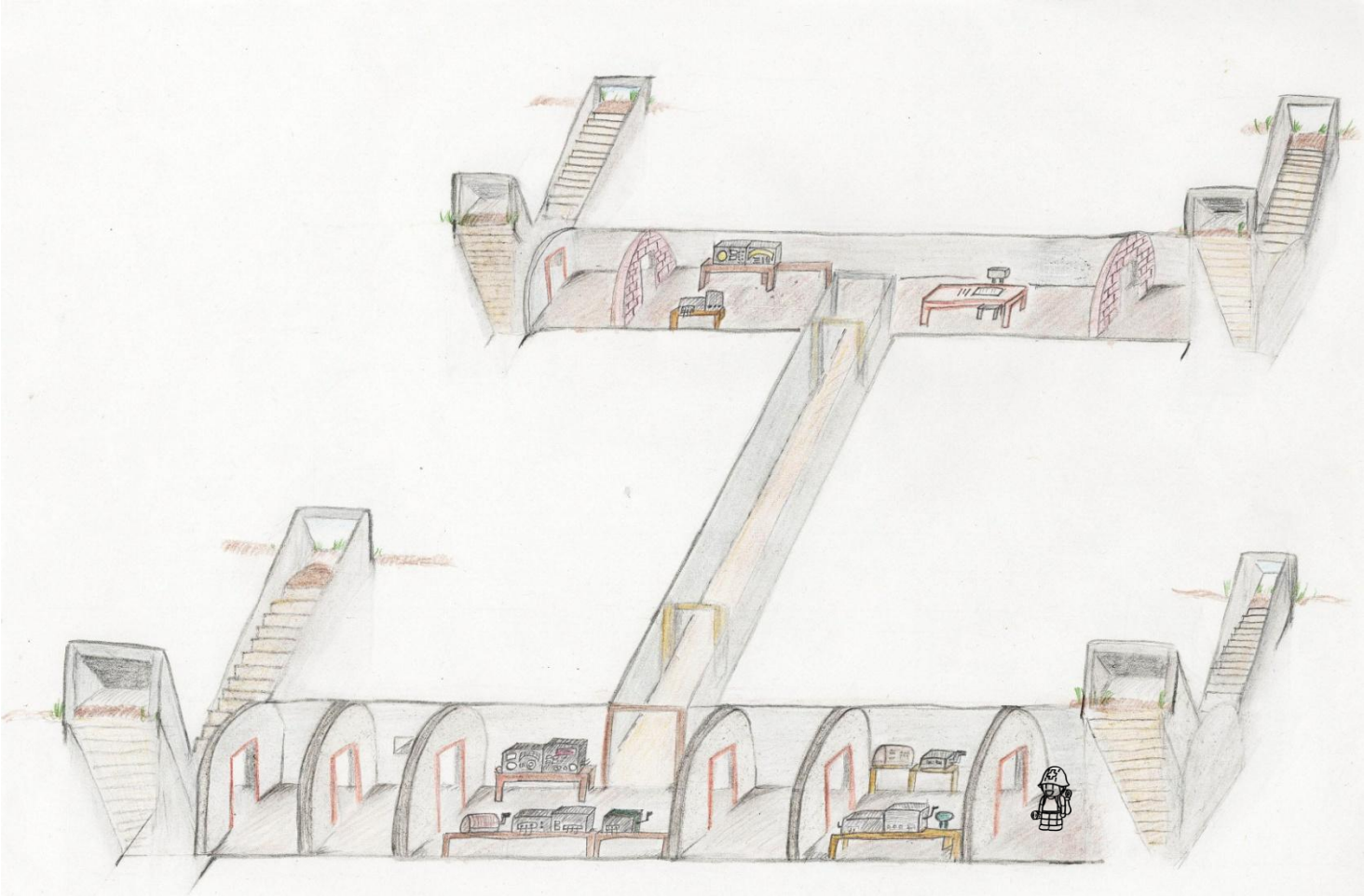
・１つの通信所につき、両端に２カ所ずつ計４カ所の入口が付けられています。

・入口から 13 段の階段で地下へと降りてゆきます。入口は多数の鉄筋がむき出しになっており、本来は地上にもコンクリートの構造があったと考えられます。

・内部はいくつかの部屋に分かれていますが、いずれもアーチ状の天井をもち、天井高は約 2.6m を測ります。部屋の幅は 2.55m。通路は幅約１ｍと規格性があります。

・部屋を仕切る壁はレンガを積んで作ってあり、片側には扉を付けていたと思われる木の枠がはめられています。

・両脇に幅 17cm の排水溝がついています。
また、壁にはいくつもの通気口がついています。32cm 角の穴があけられ、その奥に土管が地上に向かって伸びています。



通信所３・４　全体イメージ図

通信所１（全長 19.85m）

４部屋に分かれており、一番広い部屋は長さ 9.8m あります。

ガラス瓶や鍋等が多く出土し、飯ごうには、「昭一七」（昭和 17 年）や「イワツカ」といった文字が読めます。

これまでの研究から、短波送信機が置かれていたことが分かっています。

通信所２（残存部全長 8.8m）

北半分のみが残されており、南側には、通信所本体の断面を見ることができます。本体のコンクリートは厚さ約 60 ㎝、鉄筋の直径は 2.5cm あります。天井アーチ部の両脇に補強のためのコンクリート壁が付けられています。

内部の部屋の壁には、棚を付けていたＬ字金具が残されています。

これまでの研究から、耐弾発電所であったことが分かっています。

通信所３（全長 19.7m）

中央に長さ 13mの広い部屋があり、全部で３部屋に分かれています。

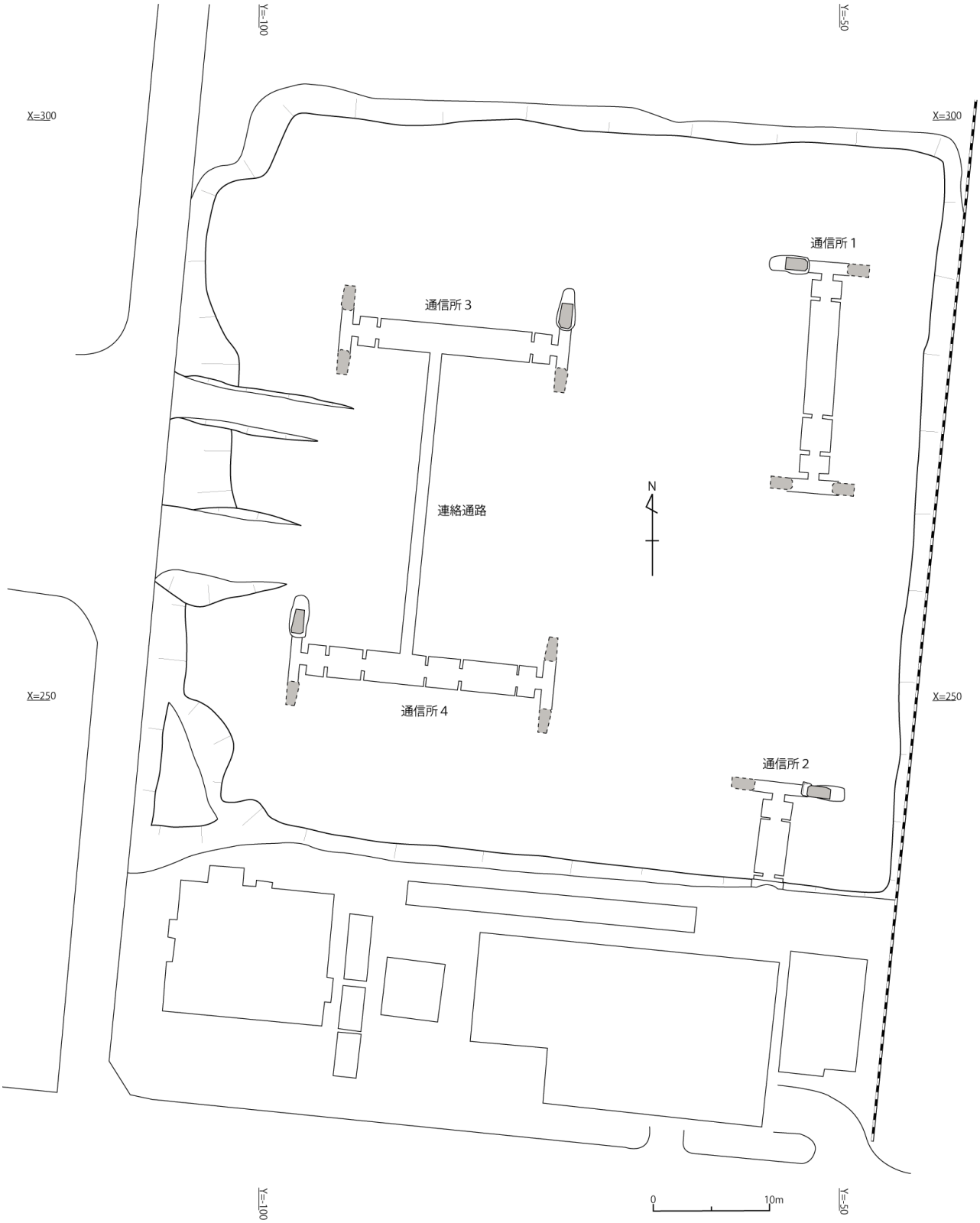
ここだけは壁が上塗りされておらず、建設時の型枠の角材やその痕跡がはっきりと残っています。また、部屋の仕切り壁もレンガを積んで作っている状態がよくわかり、通信所の建設方法を観察することができます。

通信所４（全長 22.7m）

全長は通路含めて 22.7mと一番大きく、部屋の数も６部屋と最も多い通信所です。

連絡通路

通信所３と４の間は、幅１m、高さ 1.8m、長さ 26mの連絡通路でつながっています。通信所から約３mの位置に扉跡があります。



通信所跡 配置図

今回の主な調査成果

今回の調査で、全部で４基の通信所の位置と内容が判明しました。

入口以外からは土所の流入も少なく、戦後入口が閉ざされてからほとんど改変されることなく、良好な保存状態のまま残されています。

部屋割りが通信所ごとに異なっていることや、通信所をつなぐ連絡通路の存在が明らかになるなど、これまでの軍の資料で確認できなかった詳細な情報を得ることもできました。